

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手サポートセンター)
(公 印 省 略)

緊急営農情報 1

少雨に伴う水稲における今後の技術対策

本年は、5月～6月(5/1～6/27)の降水量(太宰府アメダスデータ)は、平年の57%と少なく、県内主要ダムの貯水率(6月28日現在)は過去20年間の平均値を大きく下回っており、一部のダムでは50%未満となっています。

このような中、6月28日に九州北部の梅雨明けが発表され、今後の水不足が懸念されます。

これからの水稲の栽培管理につきまして、特に用水を確保しにくい地域においては、以下を参考にご指導願います。

1 漏水防止、水源確保対策

- (1) 農業用水の供給に影響が生じる可能性がある場合は、事前に利水調整に関して地域内で十分協議し、農業用水の有効利用に努める。
- (2) 水路のU字溝の継ぎ目より水が漏れている場合は、コンクリートやモルタルで漏水を防ぐ。
- (3) 畦畔のモグラ穴等による漏水がある場合は、穴をふさぎ漏水を防止する。
- (4) 排水路の水を再利用するため、ポンプの活用も検討する。

2 早期水稲

- (1) 4月中下旬植えでは、幼穂形成期～穂ばらみ期に入っており、この時期の水不足は不稔もみの増加を引き起こす恐れがあります。そのため、計画的配水を行いながら、ほ場状態を最低でも黒湿りの状態に保つ。
- (2) 籾の充実を高めるため、出穂後20日間は水を切らさないように管理する。
- (3) 用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5 cm程度に設定し、雨水をほ場内にとどめる。

3 普通期水稲

- (1) 水稲が最も水を必要とするのは、穂ばらみ期～出穂開花期のため、この時期を中心に計画的配水を行う。
- (2) 分けつ期は、間断かん水を基本とする水管理を行う。
- (3) 初期除草剤が散布出来なかったほ場や用水不足により初期除草剤の効果が劣っている場合は、中後期除草剤を登録の範囲内で散布する。
- (4) 用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5 cm程度に設定し、雨水をほ

場内にとどめる。

(5) 用水不足の地域においては、中干し後の漏水を防止するため、中干しを弱めに行うか実施しない。

(6) 穂肥は、土壌水分がある状態ならば施用する。

表1 節水を目的とした計画配水の例

生育時期 (出穂後日数)	水の必要度	用水が少ない場合	土壌水分の限界の目安
分けつ期	必要	湿潤 (表面を湿らせておく程度)	黒乾
無効分けつ期	極少	断水	白乾
幼穂形成期 (-25~-12日)	最必要	数回かん水	黒湿り
穂ばらみ期 (-11~-1日)	最必要	週に数回かん水	黒湿り
出穂・開花期 (0~7日)	最必要	週に数回かん水	黒湿り
登熟初中期 (8~30日)	必要	湿潤 (表面を湿らせておく程度)	黒乾
登熟後期 (31日~)	少	断水	黒乾
落水時期 [収穫7日前]	極少	断水	白乾

※1 土壌水分の限界は、水稻の生育、収量に大きな影響を与えないと考えられる最低の土壌水分状態である。この限界を超えた場合は、次のような水稻への影響が懸念される。

- ・穂ばらみ期～出穂・開花期 … 1穂粒数の減少や不稔による稔実粒数の減少（シイナの増加）により収量低下。
- ・登熟初中期以降 … 粒の充実不足により収量、品質が低下。

※2 「黒湿り」とは足跡に水が残る程度で、「黒乾」とは足跡が残らない田面が黒く乾いた状態。「白乾」とは田面が白く乾いた状態。

以上